

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102525		
法人名	有限会社かがやき		
事業所名	グループホーム百花		
所在地	岐阜市前一色1丁目4番18号		
自己評価作成日	平成23年9月20日	評価結果市町村受理日	平成23年12月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170102525&amp;SCD=320&amp;PCD=21">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170102525&amp;SCD=320&amp;PCD=21</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成23年10月23日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①自分の足で歩き、自分の手を使う当たり前の生活の確保 ・身体機能低下の早期発見と対策
②地域に根ざした当たり前の生活の確保 ・地域行事への参加 ・近隣の人との当たり前の交流がある生活
③職員同士が励まし合い、思いやりながら同じレベルの介護を目指し 楽しく働ける職場

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、飲食店や商店が立ち並ぶ交通量の多い道路沿いにあるが、道一本裏に入れば、田園風景が広がる静かな住宅地である。利用者は、近隣の人々と日常的に交流し、それぞれが役割を持ちながら、当たり前、自立した生活を送っている。また、デイサービスと併設であるため、日中はデイサービスの行事に参加するなど、活動的に過ごしている。ホームには、若年性の男性利用者も加わり、さまざまな年代の人達が支え合いながら暮らす大家族のような、暖かい雰囲気のホームである。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームのドアを開けてすぐに目の留まる場所に掲示してある。管理者と職員は、月に1回のミーティング時に合唱して再認識する機会を多く持ち、理念に沿った介護を常に心掛けている	理念は、ホーム入り口に大きく掲示されている。どんな時も家庭的な雰囲気を大切にしながら、利用者個々の能力に応じた作業を提供・実践し、役割を持って生活することの楽しさを感じてもらえるよう努力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、地域行事の参加を日常生活の中に組み入れている。近隣の人は、散歩時に畑仕事をしている人や道行く人に挨拶を交わす、季節の物や珍しい物があればおすそ分けをするなどのお付き合いがある。	地域自治会に加入し、年間行事計画を元に、参加できるものには利用者と共に参加している。ホーム隣の畑を自由に使わせてもらっており、収穫された野菜をもらう事も多く、ホームからは、それを調理し、惣菜や菓子を返すなど、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩時に道で出会う近隣の人や昼間独居の人と挨拶を交わした折にカラオケやお茶のお誘いをしたり、緊急時の避難場所として利用して頂くことを連合会長さんに伝えてある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の度に利用者の現況を報告し、評価と課題について話し合い、その結果を職員会議の場で伝えて検討し、サービスの向上に繋げている	会議は、隔月に開催し、行政・地域関係者・家族が参加している。利用者の現状報告を行い、意見を交わしている。転倒の多い利用者に対し、福祉用具事業所からセンサーマットを借り受け試行するなど、積極的に意見を吸い上げ、活用している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホーム協議会主催の会議や運営推進会議を通して、最新の情報を入手したり、相談事が起こった時点で市職員から助言を頂くなどして解決に努力している	運営推進会議には、市や地域包括支援センターの担当者が必ず出席しており、他のホームの取り組みや今後のグループホームの動向などの情報を得ている。課題があれば随時相談し、助言を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をするケアは行っていない。ドアを開けて直ぐの階段の施錠については、その時の利用者の動きに合わせて施錠しないケアに努めている。また、定期的に職員研修を行い自由な暮らしを目指している	職員研修を定期的に行い、拘束のないケアを実践している。独歩の利用者が多いが、1階のデイサービスのフロア、洗濯干し場、散歩など、職員の誘導や見守りの元、ホーム内外を自由に行動している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修を受講する機会を持ち、その研修資料やマニュアルを資料として、定期的に内部研修を行い、防止に努めている		

岐阜県 グループホーム百花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は、日常生活自立支援事業の専門員として携わった経験があり、日々権利擁護を念頭においたケアを心掛けている。入所前の相談時に成年後見制度利用につなげた経緯がある		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約内容について説明し、同意を得られた後に締結している。また、改定時には事由と改定内容を文章化してお届けし、全員の同意(記名・捺印)を得られた後に実施している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族からの不満、苦情は、受け手が上の者に報告している。管理者、施設長は内容を分析し、全職員に対処している。重要事項説明書にも外部者へ表せることを明記して説明している	職員は、面会に訪れた家族とも親しくなれるよう普段から心がけている。利用者からの意見や要望がないか、面会に訪れた家族に聞き取る努力をしている。家族からは、食形態を変更してもらいたいとの要望が寄せられ、速やかに対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、要望、提案を随時受け入れ、施設長に報告して善処している。また、月に1回の職員会議の場でも意見、提案を聞き運営、業務改善、向上に活かしている	毎月の職員会議には、必ず全員が発言する機会を設けている。職員のほとんどが主婦で、年齢の幅もあるが、職場は”職員の家庭が基本である”との代表者の思いもあり、勤務時間や処遇面などの希望に耳を傾け、働きやすい職場、よい人間関係が築かれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間や給与面など、個人的な事情をできる限り取り入れて働きやすい環境を整えている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加を積極的に呼びかけ、研修費用や交通費は会社が負担している。受講した職員は内部研修の機会を作り、職員全員の共通意識を高めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議の発足当初から交流のある同業者とは、利用者の訪所の受け入れや電話での相談事などの交流がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の入所受け入れの状況や本人が困っていること、不安なこと、要望などをお聞きして、できるだけ今までの生活が継続できるサービス計画書を作成して、安心していただけるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談の時点で、家族が抱えている悩みごとや要望をお聞きして、入所が適切と認めたと、ホームと家族の役割を明確にし、共に本人を支える関係作りに務めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の内容(本人のADL、認知の状態、希望など)をお聞きして、専門分野の意見も重視して、入所の適正について見極めている。過去に、取りあえずは病院の診察を優先すべきと判断して入所が先送りとなった例がある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常的な会話の中で、職員の知らない戦争中の苦労話や亡くなった夫との思い出話、子育ての話、またはお料理の話などから教えて頂いたり、無理なくできる家事などで助けて頂いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時やお便りで、本人が家族に求めていることを代弁したり、健康面も含めた日常生活の様子を伝えている。できる限り家族と過ごせる時間も持つて頂けるように働きかけている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	過去の記憶から出る名前や場所があれば、その関係性について家族にも確認して、馴染みの関係であれば、可能な範囲で実現できるようにお願いしている	日常会話の中で名前が出れば、家族に聞き、来訪を促すなど馴染みの関係をできる限り続けられるよう取り組んでいる。個人差はあるが、家族の協力を得て、知人の見舞いや兄弟に会いに出かける利用者もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ことばの理解の有無に関わらず、自然に仲間意識ができており、お互いを思いやる姿も見られる。軽度な利用者が高度な利用者の見守りや代弁者としての役割ができています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	移動が決定した時点で、移動先にアセスメント情報や入所者状況票をお届けしている。また、直接に電話でのお問い合わせにも対応している。家族からの相談には、入所時と変わらない支援に努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1日の流れに沿って生活しているが、好きなテレビを見たいので遅くまで起きていたい、ちょっと寝坊したい、外に行きたい、こんな物が食べたいなどの家庭では当たり前の暮らしを取り入れている	利用者のほぼ全員が、日常会話は交わせることから、会話から常に聞き取り、意向に沿った個別の対応を行っている。嗜好や外食・外出・日々の時間の過ごし方等に配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に本人や家族から、バックグラウンドアセスメントとして聞き取り、実践可能なことは家族も協力をお願いして継続できるようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	起床時の状態やバイタルをもとに、その日の暮らし方を観察、記録、申し送りによって、その人の有する力を見極め、生活に活かしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所にあたり、本人、家族、関わりのあった機関からの情報収集を行い、入所後の生活にどのように活かしていくかを職員全員で検討して介護計画を作成している。また再作成時にも同様、全員でモニタリングして介護計画に活かしている	基本は3ヶ月ごとにケアをチェックし、アセスメント、課題分析概要等にまとめ、家族の意向を反映しながら作成している。参考とする記録物は、丁寧に、細部にわたり作成され、職員の努力が反映されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の身体変化、職員の気づき、医師からの指示、本人の苦情、希望などを個別記録や連絡帳に記載し、職員全員の共有を図っている。見直しの時期にも職員全員で担当者会議を実施、評価して介護計画に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同建物内で営業しているデイサービスとの合同行事や利用者、スタッフとの社会交流をはじめとして、広く対応している		

岐阜県 グループホーム百花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域からの公私にわたる呼びかけへの参加によって、馴染みの関係が確立し、お互い様のお付き合いの中から安全で楽しみのある生活が出来ている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の医師をかかりつけ医として、入所希望の問い合わせの段階から、説明、同意を得た上で契約している。かかりつけ医の専門外の受診についても積極的に紹介状を作成、安心して受診できる体制がある	契約時にかかりつけ医に関する十分な説明を行い、了承を得た上で、全員がホームの協力医をかかりつけ医とし、利用前のかかりつけ医からは十分な医療情報を受けている。月2回の定期往診を行うかかりつけ医以外の受診は、基本的に家族の役割であるが、状況によっては、職員が付き添う体制がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	契約看護師とは24時間の連携体制があり、日常生活の情報を提供し健康管理ができています。受診の必要ありと判断した時には、かかりつけ医との連携の中で適切な受診ができています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院となった時には、病院関係者にアセスメント情報や入所者状況票の資料や電話や直接口頭での情報を提供し、本人が安心して治療を受けられるようにしている。家族には、入院期間や退院後について、できるだけ希望に添うように努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームや家族に対して、重度化や終末期が予想される早い段階から、主治医による医療的説明がある。その後、家族、ホーム間でカンファレンスを実施し、今後の方針を共有し家族、ホーム全職員で取り組んでいる	早い段階から、利用者・家族には医師から説明し、看取りの同意書を取り交わしている。職員とも十分に話し合い、双方が納得できた上で終末期を皆で支えている。看取りでは、医師、代表者、管理者の連携も良く、迅速に対応している。家族が泊まれる場所も準備してある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備えて年に2回の消防訓練時に心肺蘇生法や搬出方法などの講習も取り入れている。急変時や緊急事態発生時に備えて、マニュアルを作成し、定期的に研修を実施している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時に備えて、近隣の消防署の協力を得て年に2回の消防訓練を実施している。地域自治会開催の消防訓練にも参加可能な利用者と共に年に1回参加している。地域の消防団との協力体制もある	年2回の消防訓練を実施し、避難ルート等の確認が行われている。次回の避難訓練では、階段を使つての避難誘導が予定されている。	岐阜県の施設災害対策情報をもとに、災害時の役割分担・利用者の安全確保・情報伝達手段等、災害を想定したマニュアル作りに取り組まれない。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常生活の中で、家族の一員としての親しみのある関わりの中でも、人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。また、月に1回開催している職員会議で定期的に研修を実施している	職員は、家庭的な雰囲気となるよう、常に心がけているが、つい慣れ合いになってしまわないよう、高齢者を敬う言葉かけに努めている。代表者・管理者は、常に手本となる行動をとり、職員に伝えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、食べたい献立や外食の希望を聞いて実現できるようにし、理解が出来ない人、言葉に出来ない人については、その人に合った表現で伝え、希望を聞けるようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れに沿って生活しているが、昨夜は睡眠不足でもう少し寝ていたい、テレビを見たいので寝るのを遅くしたいなど、家庭生活として当たり前の希望を取り入れている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	委託している美容院の派遣により2月に1回の髪カットをして頂いている。また、毎日の洗顔、整髪時にはできるだけ自力でできるように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嚥む力の低下や嚥下能力低下の利用者にも安心して楽しんで食べられる工夫をして、常に今の季節を感じて頂けるようにお祝い事や季節に合わせた食事を提供できるようにしている。また、調理の準備や片付けも出来る範囲で協力をして頂いている	常に季節を感じてもらえる食事を提供している。利用者には、主に野菜の下ごしらえや片付けなどを手伝ってもらっている。個人差もあるが、利用者のできる範囲で、強制せず、楽しんで参加してもらえるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康に配慮した食事を提供し、摂取量も毎食時記録に残している。水分量は食事時以外にもいつでも飲用できるようにお茶とコップをテーブルに設置してある		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に自立の利用者には声かけまたは見守りにより実施できている。介助が必要な利用者は職員が付き添い実施できている。歯の破損や劣化の早期発見に努め、早い時期に歯科受診も行っている		

岐阜県 グループホーム百花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を元に声掛け、誘導、介助により、できるだけ失禁を無くし、パッド使用も減らすよう努めている。尿意の無い人にもトイレ誘導して回復を促している。入所時に紙パッド、紙パンツ使用の人が布パンツに回復したケースもある	排泄チェック表をもとに、排泄パターンを把握した対応により、紙パンツから布パンツに切り替えた利用者も多い。必要な人には、昼夜を問わず、2時間おきに声をかける等努力している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、朝食時に手作り寒天とヨーグルトを欠かさず配膳したり、散歩や軽運動で体を動かすなどで便通を促している。それでも頑固な便秘症の人には、漢方茶を飲んで頂いたり、主治医の指示で薬剤の処方で改善している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2回の入浴を楽しんで頂いている。排泄などで不快を感じている利用者については、都度実施している。また週に4回、他の施設に通所している利用者は、通所日の度にお出かけ前の朝シャワーを実施して不快感を軽減している	週2回の入浴を基本としており、季節の菖蒲湯・ゆず湯等も楽しんでいる。また、汚れた場合は、その都度対応している。若い男性利用者が、週4回、作業場に出かける日の朝には、シャワーを援助する職員の心使いがある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	エヤコンの使用により安眠できるようにしているが、それでも寒がりの利用者には、安全を確保した上で電気あんかを使用したり、暖かい飲み物を提供するなどによって安眠の手助けをしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤配や誤飲防止として、決まった職員が担当したり、服薬表を作成、掲示している。また、処方箋を個人ファイルに綴り、服薬内容を確認できるようにしている。症状の変化に気付いた時は、早めに主治医に報告して改善している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	計算が得意な人、歌が好きの人、ナンプレの得意な人、日曜大工が得意な人など、個々の生活歴、身体機能、能力に合わせて、発揮できる場を提供している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常の会話の中で本人が出かけたい場所などを聞き取り、機会があれば戸外に出掛けられるよう支援している。また、過去の馴染みの場所や遠方への外出は、家族の協力をお願いしている	ホーム周辺には、神社・寺・地域集会場等を探り、日々散歩している。近くに商店へは、個別に買い物に同行している。ホームの1階がデイサービス事業所で、事業所の活動や行事への参加が日常的にある。遠方への外出は家族に協力を依頼している。	



岐阜県 グループホーム百花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理のできる利用者については小銭入れにお金を入れて手渡し、希望の買い物ができるようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかける電話の取次ぎなど、希望があればできるようにしている。親族から定期的にお便りが届く利用者でも書くことを嫌うため、機会ある毎に名前や字の練習を取り入れている。年賀状は全員毎年出している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のスペースには2台の空気清浄機と温湿度計を設置して快適な生活空間を作っている。また、テーブルにはできるだけ季節の花を飾るようにしたり、季節毎に貼り絵を制作して、その時々季節感を味わって頂いている	共用空間の中央にトイレが2ヶ所あるが、空気清浄機が設置され、日当たりもよく、この季節は窓を開け換気も十分である。利用者はくつろげる時間も共用空間で過ごすことが多い。季節の花が飾られ、手の届く範囲にTV、雑誌、ゲーム等が整理されて置いてあり、自由に手にすることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用のスペースにはソファの場所と椅子の場所があり、気の合う人との会話ができている。また、自室に他の利用者を招いて談話したり、思い思いに自由に過ごすことができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に馴染みのものを持って来て頂くことを伝えている。無き夫の写真や仏壇、使い慣れたタンスを自室に置くなどして安心した生活が保たれている	フローリングのゆったりした居室である。ベッドや筆筒など持ち込む利用者もあり、TV、仏壇、家族写真など個性豊かな居室となっている。居室入り口の刷りガラスには、部屋間違いを予防する工夫が感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内の移動時には、個々の身体能力に合わせて、手摺りや手押し車の利用によって、安全に自立した生活の手助けとなっている。		